

第 21 回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 開催要項

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. 目的

豊かな創造性と未来への展望を持つ人間としての高校生に対して、校内放送をとおり番組の制作技術の向上、表現力、創造性の開発および、豊かなコミュニケーションと文化活動の振興を図る。

2. 主催

東北地区高等学校文化連盟放送部会

3. 共催

岩手県教育委員会・岩手県高等学校文化連盟

4. 主管

岩手県高等学校文化連盟放送専門部

5. 後援

盛岡市教育委員会・報道各社

6. 日時

2018(平成 30)年 2 月 3 日(土)11:30~18:00

2018(平成 30)年 2 月 4 日(日) 9:00~14:30

7. 会場

岩手県公会堂(キャンペーン部門準決勝・全部門決勝)

<http://iwate-kokaido.jp/>

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 11-2

盛岡駅よりバス(バスセンター行 他)にて「県庁・市役所前」下車, 正面 tel. 019-623-4681

プラザおでって(アナウンス・朗読部門準決勝)

<http://www.odette.or.jp/plaza-odette/>

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目 1-10

岩手県公会堂より徒歩 5 分 tel. 019-604-3300

8. 開催部門(参加規程, 制作・審査規程参照)

(1)アナウンス部門

(2)朗読部門

(3)ラジオキャンペーン部門

(4)テレビキャンペーン部門

9. 審査員 (制作・審査規程参照)

大会会長が委嘱する専門職審査員および各県代表の教育職審査員による。

10. 表彰

(1)アナウンス部門・朗読部門

最優秀賞 1 賞状・副賞(トロフィー)

優秀賞 2 賞状・副賞(トロフィー)

優良賞 3 賞状・副賞(楯)

入選 4 賞状

奨励賞 10 賞状

(2)ラジオキャンペーン部門・テレビキャンペーン部門

最優秀賞 1 賞状・副賞(トロフィー)

優秀賞 2 賞状・副賞(トロフィー)

優良賞 3 賞状・副賞(楯)

入選 4 賞状

11. 日程

2 月 3 日(土)

11:30~12:30 総合受付(西口ギャラリー)

11:40~12:20 準決勝審査員打合せ・昼食(15 号室)

12:30~13:00 開会行事(大ホール)

13:20~14:45 ラジオキャンペーン部門準決勝(大ホール)

13:30~14:50 アナウンス部門準決勝

(プラザおでって)

A(ホール), B(大会議室)

15:00~16:30 テレビキャンペーン部門準決勝(大ホール)

15:00~16:40 朗読部門準決勝(プラザおでって)

A(ホール), B(大会議室)

17:00~18:00 講演会(生徒対象, 大ホール)

総会(顧問会議, おでってホール)

2 月 4 日(日)

9:00 開場

9:15 決勝進出發表・決勝受付(大ホール)

9:15 決勝審査員打合せ(15 号室)

9:40~10:00 ラジオキャンペーン部門決勝(大ホール)

10:10~10:30 テレビキャンペーン部門決勝(大ホール)

10:40~11:20 アナウンス部門決勝(大ホール)

11:30~12:20 朗読部門決勝(大ホール)

12:20~13:30 昼食・休憩, 決勝審査会・昼食(15 号室)

13:30~14:00 講評(大ホール)

14:00~14:30 閉会行事(大ホール)

12. 各種規定

参加規程, 制作・審査規程, 様式等は, 別に定める。岩手県高等学校文化連盟放送専門部の web サイトで公開する。<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

13. 宿泊等

宿泊および昼食の斡旋, 指導者研修会(2 月 3 日)の申込み受付については, 別紙により指定業者が行う。

申込締切: 2017(平成 29)年 12 月 22 日(金)17 時

第 21 回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 参加規程

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. 参加資格

各県事務局から推薦された個人または学校。

2. 各県推薦(エントリー)

(1) 推薦(エントリー)数

ア アナウンス部門・朗読部門…各県 12 名以内, 開催県は 14 名以内, かつ, 1 名 1 部門。

イ ラジオキャンペーン部門・テレビキャンペーン部門…各県 6 本以内, 開催県は 8 本以内, かつ, それぞれの部門について各校 2 本以内。

(2) 推薦(エントリー)締切

2017(平成 29)年 12 月 8 日(金)正午

(3) 推薦(エントリー)方法

各県事務局から大会事務局に, 別に配付する様式により作成した電子データを, メールで送付する。

(4) エントリー後のエントリー内容の変更は認めない。

3. 参加料

(1) 各部門とも 1 名(1 本)につき, 5,000 円

県参加料 1 県につき, 20,000 円

(2) 納入期限 2017(平成 29)年 12 月 8 日(金)正午

(3) 納入方法 各県事務局がとりまとめの上, 大会の口座に振り込む。振込手数料は, 各県事務局負担。

岩手銀行 仙北町支店

普通 2191872

東北高校放送コンテスト 事務局 鈴木 勇二

(4) その他 領収書は各県事務局のものとする。

4. 原稿・番組進行表・メディアの提出

(1) 提出する原稿・番組進行表・メディアの数

ア アナウンス部門・朗読部門 原稿 3 部

イ ラジオキャンペーン部門 CD1 枚・番組進行表 1 部

ウ テレビキャンペーン部門 DVD または BD1 枚・番組進行表 1 部

(2) 提出締切 2018(平成 30)年 1 月 19 日(金)正午必着

(3) 提出方法 各県事務局とりまとめの上, 大会事務局に, 郵送等により送付する。費用は各県事務局負担。

5. その他

(1) 当コンテストのために集められた個人情報については, コンテストの目的以外には使用しない。

(2) 使用著作物については, 著作隣接権を含め, 権利者の許諾を得るとともに, 制作者の責任において権利関係を適切に処理すること。

(3) 応募された番組などは, 主催者に関連する印刷媒体, ウェブサイト, 放送などで利用することがある。制作にあたっては, 番組に登場する著作物や出演者, 協力していただいた方々などから, 公開の承諾を得ておくこと。

6. 大会事務局

岩手県立紫波総合高等学校 鈴木勇二

housou.tohoku2017@gmail.com (大会専用)

〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字朝日田 1

tel. 019-672-3690 fax. 019-672-2647

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

手続き一覧

送付者	内容	方法	送付先	締切
参加校	宿泊・昼食・指導者研修会参加申込み	FAX	指定業者	12 月 22 日(金)17 時
	宿泊・昼食・指導者研修会代金	口座振込	指定業者口座	1 月 22 日(月)
各県事務局	参加者・参加校推薦, 審査員報告	メール	大会事務局	12 月 8 日(金)正午
	参加料, 東北高文連放送部会費	口座振込	大会事務局口座	
	原稿/番組進行表・メディア	郵送等	大会事務局	1 月 19 日(金)正午必着

第 21 回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 制作・審査規程

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. アナウンス部門

- (1) 内容 次のア、イのいずれかの規定による。
- ア NHK 杯全国高校放送コンテストの規定：自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限り。
- イ 次年度の全国高等学校総合文化祭放送部門の規定：郷土の話題を全国の高校生に伝える内容の自作原稿。なお、静止画は使用できない。
- (2) 規定時間 番号と氏名を読むこととし、それらを含め、1分10秒以上1分30秒以内。
- (3) 原稿様式 次のア・イにより作成する。
- ア 表紙ならびに本文は様式1による。
- イ 原稿の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。
- (4) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。
- ア 内容
- (a) 素材の選び方は適当であるか
- (b) 文章表現は適当であるか
- イ アナウンスの技術
- (a) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスされているか
- ・発声・発音・マイクの使い方
- (b) 正しく伝える抑揚表現ができているか
- ・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント
- (c) 間(ポーズ)は適切か
- ・テンポ・ポーズ
- (5) 準決勝
- ア 出場者は、A・Bの2会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿をアナウンスする。
- イ 各会場から10名ずつ、計20名を決勝に推薦する。
- ウ 不測の事態による遅刻と会長が認めた場合に限り、次の措置をとることができるものとする。
- (a) 準決勝終了までに到着した場合、エントリー番号にかかわらず準決勝の発表を認める。
- (b) 準決勝に間に合わない場合、決勝での発表を認める。ただし原則として表彰の対象としない。

2. 朗読部門

- (1) 内容 次のア、イのいずれかの規定による。いずれの場合も作品の改変は認めない。抽出は文頭から開始し、文末で終了とすること。
- ア 次年度のNHK杯全国高校放送コンテストの指定作品、またはその作家の作品。なお指定作品は次のとおり。
- ①『文鳥・夢十夜』夏目 漱石 著(新潮文庫)
- ②『なんとなくな日々』川上 弘美 著(新潮文庫)
- ③『リボン』小川 糸 著(ポプラ文庫)
- ④『賢者の贈りもの 0・ヘンリー傑作選Ⅰ』0・ヘンリー 著、小川 高義 訳(新潮文庫)
- ⑤『土佐日記』紀貫之
- ①は平成14年改版以降のものに限る。
- ①、②、④は収録作品のいずれを選んでも良い。
- ④は平成26年発行以降のものに限る。他の出版社・翻訳者のものは不可。
- ⑤は現代語訳不可、出版社は問わない。
- イ 次年度の全国高等学校総合文化祭放送部門の規定：それぞれの郷土にゆかりのある作家または作品。なお、SEやBGMは使用できない。
- (2) 規定時間 番号、氏名、著者名(訳者名は読まない)、作品名(短編集は短編名)を読むこととし、それらを含め、1分30秒以上2分00秒以内。
- (3) 原稿様式 次のア・イ・ウにより作成する。
- ア 表紙ならびに本文は様式1による。
- イ 原稿の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。
- ウ 短編集を選択した場合は作品名の欄に短編名を記入する。
- (4) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。
- ア 内容
- (a) 作品の選定は適当であるか
- (b) 朗読として適切な部分を抽出しているか
- イ 朗読の技術
- (a) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か
- ・発声・発音・マイクの使い方

- (b) 正しく伝える抑揚表現ができているか
 - ・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント
- (c) 間(ポーズ)は適切か
 - ・テンポ・ポーズ

(5) 準決勝

- ア 出場者は、A・Bの2会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿を朗読する。
- イ 各会場から10名ずつ、計20名を決勝に推薦する。
- ウ 不測の事態による遅刻と会長が認めた場合に限り、次の措置をとることができるものとする。
 - (a) 準決勝終了までに到着した場合、エントリー番号にかかわらず準決勝の発表を認める。
 - (b) 準決勝に間に合わない場合、決勝での発表を認める。ただし原則として表彰の対象としない。

3. ラジオキャンペーン部門

(1) 内容 指定するキーワードを題材とした番組。

- ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。
- イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。
- ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。
- エ 放送番組として不適切な内容や表現を含まないこと。

(2) キーワード 「ガマン」

(3) 規定時間 30秒以上1分00秒以内。

(4) 制作様式 次のア～キにより制作する。

- ア CD-DA形式(オーディオCDの形式)で作成したCD-Rを提出する。
- イ メディアには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式4によりプリントすることとする。
- ウ 再生は、原則としてステレオ(L/R)で行う。
- エ 最初に「部門名」「作品名」の順でクレジットコールを入れたのち、3秒後に本編を開始する。
- オ 本編の最後の音から3秒後に「制作は〇〇高等学校(放送部・委員会)でした」のクレジットコールを入れる。

- カ クレジットコールにはBGMや効果音をつけない。
- キ 計時は本編の最初の音から、終わりのクレジットコールの「制作は〇〇高等学校(放送部・委員会)でした」の「せ」の音までとし、その計測値から3秒を差し引いた値をもって再生時間とみなす。

(5) 番組進行表様式 次のア～オにより作成する。

- ア タイトルの文字は、JISコードの範囲内の全角15文字相当以内とする。
- イ 表紙は様式2-1、2ページは様式2-2「CUEシート」、以下、様式2-3「権利処理一覧表」、様式2-4「音源使用許諾書」、様式2-5「取材許諾・著作物等ご提供のお願い」とする。他の著作物を使用していないなど記載する内容がない場合は「なし」と記載して付す。
- ウ 他の著作物を使用した場合は、JASRAC等の明細書、権利フリー音源であることを示すレーベル面のコピー、その他使用したすべての著作物について、使用の許諾を得たことを示す文書の写しを貼付する。
- オ 番組進行表の大きさはA4縦判・左上1か所綴じとし、1部作成する。

(6) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

- ア テーマ
 - (a) 指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか
 - (b) ラジオの特性を活かして作品に表現しているか
- イ 制作技術
 - (a) 制作の手法
 - (b) 取材の方法や努力
 - (c) 企画構成
 - (d) 演出・編集
 - (e) 技術
 - ・録音の技術
 - ・アナウンスやナレーションの技術
 - ・音楽や効果音の使い方など

(7) 準決勝

- 10本を決勝に推薦する。

4. テレビキャンペーン部門

(1)内容 指定するキーワードを題材とした番組。

ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。

イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。

ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。

エ 放送番組として不適切な内容や表現を含まないこと。

(2)キーワード 「ガマン」

(3)規定時間 30秒以上1分00秒以内。

(4)制作様式 次のア～オにより制作する。

ア NTSCワイド16:9・DVD-Video形式のDVD-R、または、MPEG-4・AVC/H.264・BD-RE形式のBD-Rを提出する。

イ メディアには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式4によりプリントすることとする。

ウ 音声の再生は、原則としてステレオ(L/R)で行う。

エ 本編の前後に5秒間ずつ、様式3のテストパターンを入れる。テストパターンは無音とする。

オ 計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの最初までとする。

(5)番組進行表様式 次のア～オにより作成する。

ア タイトルの文字は、JISコードの範囲内の全角15文字相当以内とする。

イ 表紙は様式2-1、2ページは様式2-2「CUEシート」、以下、様式2-3「権利処理一覧表」、様式2-4「音源使用許諾書」、様式2-5「取材許諾・著作物等ご提供のお願い」とする。他の著作物を使用していないなど記載する内容がない場合は「なし」と記載して付す。

ウ 他の著作物を使用した場合は、JASRAC等の明細書、権利フリー音源であることを示すレーベル面のコピー、その他使用したすべての著作物について、使用の許諾を得たことを示す文書の写しを貼付する。

オ 番組進行表の大きさはA4縦判・左上1か所綴じとし、1部作成する。

(6)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア テーマ

(a)指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか

(b)テレビの特性を活かして作品に表現しているか

イ 制作技術

(a)制作の手法

(b)取材の方法や努力

(c)企画構成

(d)演出・編集

(e)技術

・撮影や録音の技術

・アナウンスやナレーションの技術

・音楽や効果音の使い方など

(7)準決勝

10本を決勝に推薦する。

5. 審査員(全部門共通)

- (1) 準決勝 専門職審査員 1 名以上および教育職審査員 6 名(各県 1 名)の 7 名以上で行う。
- (2) 決勝 専門職審査員 3 名以上および教育職審査員 6 名(各県 1 名)の 9 名以上で行う。

6. 採点・講評(全部門共通)

- (1) 部門の「審査の視点」に基づき、100 点法、1 点刻みで総合的に採点する。
- (2) 採点のめやすは次のとおりとする。

20	30	40	50	60	70	80	90	100
	普通	良い	大変良い					
- (3) 各審査員は、得点一覧を、会場ごとに定める審査主査(開催県教育職審査員)に提出する。
- (4) 各審査員は、準決勝および決勝のすべての発表ごとに、講評を記載する。

7. 得点集計および順位(全部門共通)

- (1) 得点集計と順位
 - ア 準決勝 すべての審査員の合計点から最高点と最低点を除いた審査点の高い順に順位を決定する。
 - 2 会場に分かれる部門では、会場ごとに順位を決定する。
 - イ 決勝 すべての審査員の合計点から最高点と最低点を除いた審査点の高い順に順位を決定する。
- (2) 順位決定の特例 合計点が同じ場合は次のア～ウの順に従って順位を決定する。
 - ア 専門職の得点(専門職が複数の場合はその合計点)の高い方を上位とする。
 - イ カットされた得点の高い方を上位とする。
 - ウ イで同点の場合は、審査会で順位を決定する。
- (3) 準決勝の審査会は、各部門の教育職審査員で構成する。準決勝審査会は(2)ウの場合のみに開催するものとし、18 時まで審査会の有無を総会(顧問会議)に通知する。18 時まで審査会の有無が決まらず、その後審査会が必要になった場合のみ、審査主査に審査会の権限を委任する。
- (4) 決勝の審査会は、各部門の審査員全員で構成する。決勝審査会は必ず開催するものとする。

8. 決勝(全部門共通)

- (1) 決勝進出發表は決勝当日の朝に会場で行い、指定する場所でエントリーの手続きを行う。
- (2) 決勝のエントリー順は乱数を用いて指定する。
- (3) 決勝審査では、準決勝の得点を参考にしない。

9. 規定違反(全部門共通)

- (1) 規定違反は審査の対象としない。なお、重大な違反が判明した場合は、大会後においても賞を取り消すことがある。
- (2) 計時の許容範囲は、アナウンス部門と朗読部門は±2 秒、ラジオキャンペーン部門とテレビキャンペーン部門は±1 秒とする。ただしアナ朗決勝でのタイムオーバーのみ失格とせず、得点にかかわらず奨励賞とする。

10. 講評・審査結果一覧(全部門共通)

- (1) 講評用紙はコンテスト終了後に該当校に交付する。
- (2) 提出物はコンテスト終了後に各校に返却する。
- (3) 審査結果一覧(合計・上下カット後の審査点のみ)は、コンテスト終了後に各県事務局に送付する。